



配置の工夫で 聴覚障害者の業務幅が拡大



▲朝礼では OHC を使用している。



▲日中活動の健康体操の様子。



▲会議等でも積極的に発言。



▲利用者とのコミュニケーション。

勤務シフトを配慮して、資格取得をサポート

事業所の概要と障害者雇用の経緯

昭和 32 年 10 月に身体障害者更生施設として事業開始。日々の中で3つの理念「働く」「訓練・学習する」「共に生活する」を掲げ、盲重複障害者及び高齢者の総合福祉施設として運営している。

また、福祉施設の改革を契機に、福祉ニーズに即応した新しい入所型・通所型の整備、居宅型介護サービスの向上、並びに利用者の充実した豊かな暮らしと生きがいを支援する施設運営を推進している。

創設者である故・中道益平氏は、本人自らも視覚障害者であることから事業開始直後より積極的に障害者を雇用。現在では聴覚障害者3名、肢体不自由者1名、内部障害者1名、その他の障害者1名が勤務している。

業種及び主な事業内容

障害者・老人の介護や支援、及び福祉事業。

雇用聴覚障害者数 3名(うち重度3名)

主な職務内容:
◎介護支援

取り組みの 経緯

コミュニケーションを取ろうとする気持ちが 介護の現場で活かされるように



▲外観。

介護業務に聴覚障害者を雇用する上で、まず問題視されたのは夜間勤務への対応である。昼間の勤務はスタッフが多く連携が可能であるが、夜間勤務は通常2名の配置。利用者の声・物音などが聞こえないために、利用者に対する対応などが遅れるのではないかと懸念があった。そこで、聴覚障害者が夜間勤務をする場合は通常2名のところ3名体制とし、聴覚障害者の夜間勤務が可能となった。

また、コミュニケーションは筆談及び手話による会話を基本とした。手話に関しては、手話のワンポイントレッスンを朝礼時に実施。職員全員が日常会話なら手話で十分伝達可能になっている。同時に、業務の申し送りは手話・書面での伝達を徹底しており、朝礼や会議ではOHC*を活用。他にも携帯メール、FAX 等で職員間のコミュニケーションを綿密に取り、情報確保に努めている。さらに、研修会等専門用語が多く含まれ説明が必要な場合は、専門の手話通訳士を依頼し確実に情報が理解されるように配慮している。

*OHC とは「Over Head Camera」の略で実物投影機のこと。紙媒体の資料や実物を、直接プロジェクターを通してスクリーン等に投影することができる。

一方で、聴覚障害者のスキルアップ支援策にも取り組む。資格の講座受講中は夜間勤務から日中の勤務に変更、スクーリングへの出席は特別休暇扱いとし、資格取得に向けたスキルアップを支援。現在、1名が「盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者」資格を取得している。市町村・団体主催の手話通訳士向けの講座、手話サークル等の講師をするなど、交流の輪が広がりさらなる自己の成長につながっている。

聴覚障害者と共に働くことで、言葉だけでなく「コミュニケーションを取りたい気持ち」が一番大切だと職員全員が理解し、業務に活かされている。



▲朝礼で手話通訳の様子。



	改善前の状況	改善後の効果	
1 夜間勤務への対応	利用者の声・物音が聞こえない等の不安から、聴覚障害者の夜間勤務には不安があった。	聴覚障害者が夜間勤務をする場合は、通常の2名体制から3名体制に変更した。チームワークにより利用者への素早い介助ができるようになり、聴覚障害者の仕事の幅が広がった。	注目の改善点 1
2 OHC の活用	介護という業務特性上、申し送り時にきちんと情報が共有されていないと、支援の低下につながる可能性もある。	申し送りは手話、書面の両方を使って伝達。会議時はOHCを活用し、重要箇所をポインターで示すなどしてわかりやすく説明している。また職員同士の休憩時間の積極的な情報交換、携帯メール、FAXの活用で、聴覚障害者への情報保障に取り組んでいる。	注目の改善点 2
3 手話の内部研修	職場メンバー間の手話によるコミュニケーション推進のため、職場内での研修も必要となってきた。	聴覚障害者からの働きかけにより、朝礼にて手話のワンポイントレッスンを実施。ほぼ全員が手話を介した日常会話ができるようになっていく。コミュニケーションの垣根が低くなり、スタッフ間の話し合いの充実、信頼関係が生まれるなど働きやすい職場環境が構築された。	
スキルアップ支援	介護業務には専門知識が必要であり、定期的な研修が必要であった。	受講中は昼間の勤務にシフトを変更、スクーリング時は特別休暇扱いにするなど、働きながら学べる環境を整備している。聴覚障害者が資格取得に挑戦することで良い意味で競い合い、スタッフのスキルアップ・モチベーションアップにつながっている。	注目の改善点 3
手話通訳士の活用	研修会等は専門的な用語が多く含まれるが、確実な情報伝達を行う必要があった。	研修や大事な会議の場面は内容も専門的であり手話も専門用語の使用が多くなるため、手話通訳士の派遣を外部機関に依頼。確実に情報が理解されるよう配慮している。	

改善策 紹介

聴覚障害者から
介護支援に対する大切な
ことを職員全員が学んだ



▲手話と口話でコミュニケーション。

注目の 改善点 1

配置人数変更で夜間勤務可能に——聴覚障害者が夜間勤務の場合は3名体制で

効果 3名配置により、利用者の声・物音が聞こえないことによる対応の遅れを防止することができ、聴覚障害者の仕事の幅が広がった。

通常、夜間勤務は2名配置であるが3名を配置することで聴覚障害者を健聴者がフォロー、夜間勤務が可能となった。同時に、手厚い介助が可能となる意味で利用者にとってもメリットが大きかった。また、当施設では同性介助を基本としているため、聴覚障害者を加えた3名体制の方が配置のバランスが取りやすく、同性介助しやすくなったという

のもメリットの1つである。

当初、利用者の声や物音が聞こえないことが介護支援を行う際にハンディになるのではないかなどという不安な面があった。しかし、周囲の表情、動作から利用者の誤飲を未然に防いだ事例があり、非言語の情報を一生懸命に読み取る姿勢と能力は高く評価されている。



▲職員の明るい笑顔が印象的だ。

注目の 改善点 2

手話・書面を使った情報伝達の徹底——OHC、携帯メール、FAXの活用

効果 情報を的確かつスムーズに伝達。簡単な手話なら職員全員が可能で、聴覚障害者の情報確保を支援している。スタッフ間の垣根もなくなり、信頼関係が構築された。

毎朝の朝礼やミーティング・会議時にはOHCを使用し、報告を徹底している。OHCでプリントをスクリーンに投影して表示。ポインターで指しながら読み上げることで視覚的な理解に結びついている。同時にOHCの使用は聴覚障害者への情報保障の面だけでなく、職員全員が聞き流すのではなく、スクリーンを見て再確認できるという

意味でも利点のあるツールだ。

また、介護支援という業務はスタッフ間の何げない会話から利用者の細かな情報が入ることが多いため、休憩時に多様な情報交換をする風土を醸成。携帯メールやFAX等による職員間の連絡体制を整備するなど、朝礼や会議以外の密な情報交換ができるよう取り組んでいる。



▲OHCで読み上げている箇所を指し、横では手話通訳。



▲真正面にスクリーンと手話通訳を見ることができるので、確認しやすい。



▲手話のワンポイントレッスン。

注目の 改善点 3

スキルアップ支援——手話通訳士の派遣、シフト変更、特別休暇扱いでバックアップ

効果 1名が「盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者」の資格を取得。地域の手話講座の講師をするなど、活躍の場を広げている。同時に、職員同士、スキルアップに向けた意識が向上した。

職員は「業務報告会」「生活事例報告会」などの内部研修に年に数回参加するほか、外部の研修も受講する。その際、聴覚障害者に対しては手話通訳士を付けて積極的な研修への参加を支援。

また、「社会福祉士」「盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者」資格取得のための講座を受講する際には、負担を考

て夜間勤務から昼間の勤務へとシフト変更した。スクーリング出席時は特別休暇扱いにするなど職場でもフォローをし、本人の並々ならぬ努力もあって資格取得に至っている。聴覚障害者の熱意・やる気は仕事ぶりからも一目瞭然で、健聴者の職員にも良い意味で刺激となり職場活性化につながっている。



▲パソコン業務も行う。



▲手話のワンポイントレッスンで、スタッフ全員が手話による日常会話が可能に。

INTERVIEW

管理担当者の声



理事・朝日事業所長
荒木 博文さん

当施設には視覚・聴覚共に障害を持ついわゆる盲ろう者も多く入所しており、その方たちとのコミュニケーションに関して、聴覚障害者は非常に優れた面を持っていると感じています。今では、聴覚障害者の“人となり”を入居者が理解し受け止めてもらえるまでになりました。

ちょっとした工夫をするだけで、健聴者の職員と何ら変わらずに活躍をしてくれますし、コミュニケーションを必死に取ろうとする姿は、他の職員にも良い影響を与えており、施設としてプラスに働いているのは間違いありません。

職場レポート

従業員の声



嵯峨崎 友華さん

光道園で働いて10年ほど経ちますが、以前に比べてずいぶん働きやすくなったと感じています。朝礼等ではOHCを使用しているので理解がしやすいです。専門用語も出てきますが、苦勞しながら手話通訳して下さるので感謝しています。



梅田 五十恵さん

以前は普通の企業に勤めていましたが、私の発音がきれいなこともあり聴覚障害への理解が少なく、苦勞したことも度々でした。でも、今は周りの方の理解もあり情報もきちんと入ってくるので、とても働きやすいと感じています。



吉田 正樹さん

これまでは研修などに参加しても手話通訳が付かないため、口話だけで内容を理解しなければならず苦勞することも多かったのですが、今は手話通訳や要約筆記をいただけているので、その場で理解が進み、勉強がはかどるようになりました。